

## 2024年3月期(2023年度) 中間連結決算について

### 1. 2023年度中間連結決算 … 4期ぶりの黒字化

国際線は、水際対策が昨年10月に大幅に緩和され、今年4月に撤廃されたことなど、規制緩和が大きく進んだことを受けて、発着回数及び旅客数が前年同期を大幅に上回りました。特に、外国人旅客数は前年同期比約7倍と顕著な増加が見られました。国際航空貨物量は昨年度からの海上輸送の正常化や世界的な景気減速により、前年同期を下回りました。これらの結果、営業収益は前年同期の531億円から466億円増収の997億円となり、3期連続の増収となりました。

営業費用は、需要回復に対応した施設運営や老朽化対策、売上に連動する費用などの増加がありましたが、継続して最大限のコストマネジメントに努めました。その結果、4期ぶりの黒字計上となり、営業利益は前年同期の170億円の損失から213億円改善の43億円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期の185億円の損失から222億円改善の36億円となりました。

(単位:億円)

科 目	中間期(4月1日 ~ 9月30日)			
	2022年度	2023年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	531	997	466	187.7
営 業 費 用	702	954	252	136.0
営 業 利 益	△170	43	213	-
経 常 利 益	△178	34	212	-
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	△185	36	222	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### 【参考】2023年度中間期航空取扱量実績

区 分	中間期(4月1日 ~ 9月30日)			
	2022年度	2023年度	増 減	
	実績 A	実績 B	数 量 B-A	% B/Ax100
<b>航空機発着回数(万回)</b>	<b>8.3</b>	<b>10.5</b>	<b>2.2</b>	<b>126.5</b>
国際線	5.7	8.0	2.3	140.1
国内線	2.6	2.6	△0.1	97.3
<b>航空旅客数(万人)</b>	<b>783</b>	<b>1,657</b>	<b>875</b>	<b>211.7</b>
国際線	439	1,266	827	288.2
国内線	343	391	48	113.9
<b>国際航空貨物量(万ト)</b>	<b>118</b>	<b>92</b>	<b>△26</b>	<b>78.0</b>

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

## 2. 2023 年度連結業績予想 … 前回発表の航空取扱量見通し及び業績予想を据え置く

本年 5 月 25 日に発表した 2023 年度の航空取扱量見通しは、国際線は中国の訪日旅行商品の販売が再開され、年度末へ向けて漸次回復し、国内線は前年度並みの水準を維持すると想定しており、足元の状況は概ね想定通りに回復しております。一方、依然として下期は世界経済の先行きが不透明であること、エネルギー価格の動向や物価の上昇など不確実な要素があることから、航空取扱量見通し及び業績予想については当初の見通しを据え置くこととしました。

なお、実際の業績はこれら航空需要など経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。空港の安全と安定運用を前提として継続的に実施しているコストマネジメントに努めてまいります。

### 【参考】前回発表時の取扱量見通し及び業績予想

区 分	2022 年度	2023 年度	増 減	
	実績 A	見通し B	数 量 B-A	% B/Ax100
<b>航空機発着回数 (万回)</b>	<b>17.8</b>	<b>24.0</b>	<b>6.2</b>	<b>135.0</b>
国際線	12.5	19.0	6.4	151.2
国内線	5.2	5.0	△0.2	96.1
<b>航空旅客数 (万人)</b>	<b>2,052</b>	<b>3,546</b>	<b>1,494</b>	<b>172.8</b>
国際線	1,356	2,783	1,427	205.3
国内線	696	763	67	109.6
<b>国際航空貨物量 (万トン)</b>	<b>220</b>	<b>204</b>	<b>△16</b>	<b>92.7</b>

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

(単位:億円)

科 目	2022 年度	2023 年度	増 減	
	実績 A	予 想 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	1,313	2,006	692	152.7
営 業 費 用	1,631	1,953	321	119.7
営 業 利 益	△317	53	370	-
経 常 利 益	△482	19	501	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△502	6	508	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### 3. セグメント別 2023 年度中間連結決算

(単位:億円)

	中間期(4月1日~9月30日)			
	2022年度	2023年度	増減	
	実績	実績	金額	%
営業収益※	531	997	466	187.7
空港運営事業	259	418	158	161.2
リテール事業	100	422	321	418.3
施設貸付事業	156	142	△13	91.2
鉄道事業	14	14	0	100.4
営業費用	702	954	252	136.0
営業利益	△170	43	213	-
空港運営事業	△241	△135	105	-
リテール事業	△8	115	123	-
施設貸付事業	74	58	△15	78.8
鉄道事業	3	3	0	114.2
経常利益	△178	34	212	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	△185	36	222	-

※ 外部顧客への売上高

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

- 空港運営事業 : 航空旅客需要が順調に回復していることから、空港使用料収入は前年同期比 25.4%増の 149 億円、旅客施設使用料収入は前年同期比 181.0%増の 151 億円となり、営業収益は前年同期比 61.2%増の 418 億円、営業損失は 135 億円となりました。
- リテール事業 : 航空旅客需要は順調に回復し、円安傾向が続いていることから、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前年同期比 390.4%増の 326 億円、構内営業料収入は前年同期比 209.1%増の 42 億円となり、営業収益は前年同期比 318.3%増の 422 億円、営業利益は 115 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 国際線の水際対策が終了したことに伴い、検疫所への貸付面積が減少したこと等から、営業収益は前年同期比 8.8%減の 142 億円、営業利益は前年同期比 21.2%減の 58 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 14 億円、営業利益は 3 億円と前年同期並みとなりました。

## 4. 財政状態

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### <連結貸借対照表>

(単位: 億円)

科目	2022年度期末	2023年度中間期末	増減	
	実績	実績	金額	%
流動資産	4,169	3,933	△235	94.3
固定資産	8,488	8,650	161	101.9
資産合計	12,657	12,583	△73	99.4
流動負債	1,508	788	△719	52.3
固定負債	8,795	9,401	605	106.9
負債合計	10,303	10,189	△113	98.9
純資産合計	2,354	2,394	39	101.7

- 資産合計は、前期末比 0.6%減の 1 兆 2,583 億円となりました。
- 負債合計は、短期借入金の減少等により、前期末比 1.1%減の 1 兆 189 億円となりました。
- 純資産合計は、前期末比 1.7%増の 2,394 億円。自己資本比率は、前期末 18.0%から 0.4 ポイント改善し 18.4%となりました。

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

### <参考: 長期債務の推移>

(単位: 億円)

科目	2022年度期末	2023年度中間期末	増減		平均金利	
	実績	実績	金額	%	2022年度期末	2023年度中間期末
有利子債務	8,572	8,967	395	104.6	0.50%	0.50%
社債	4,506	4,906	400	108.9	0.43%	0.43%
長期借入金	4,066 <sup>*</sup>	4,061 <sup>*</sup>	△5	99.9	0.59%	0.59%
無利子債務	204	324	120	158.8	-	-
長期借入金	204	324	120	158.8	-	-
合計	8,776	9,291	515	105.9		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

## 5. キャッシュ・フローの状況

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位: 億円)

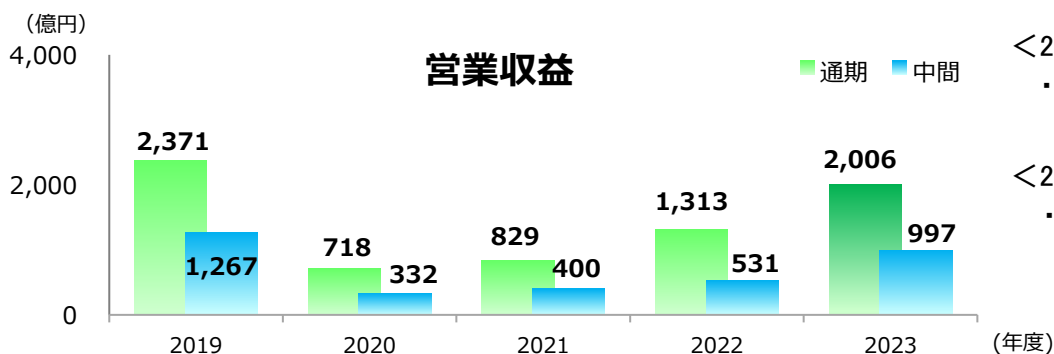
科目	中間期(4月1日~9月30日)		増減
	2022年度	2023年度	金額
	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△18	313	332
投資活動によるキャッシュ・フロー	△459	△367	91
フリー・キャッシュ・フロー	△478	△54	423
財務活動によるキャッシュ・フロー	262	△87	△350

- フリー・キャッシュ・フローは、54 億円のキャッシュ・アウトとなりました(前年同期比 423 億円の改善)。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益が改善したこと等により、前年同期は 18 億円のキャッシュ・アウトであったのに対し、313 億円のキャッシュ・インとなりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の減少等により、キャッシュ・アウトは前年同期比 91 億円減の 367 億円となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行による調達があったものの、短期借入金の返済等により、前年同期は 262 億円のキャッシュ・インであったのに対し、87 億円のキャッシュ・アウトとなりました。

**参考**

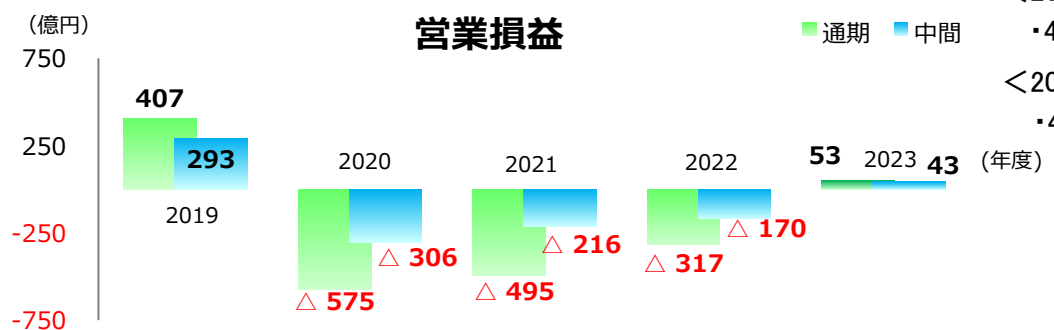
**【連結決算推移】** 2023 年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。



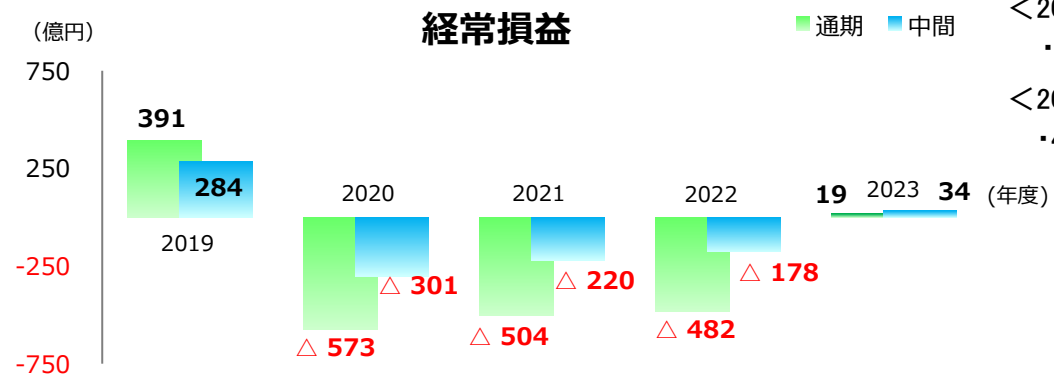
<2023 年度中間期>  
・3 期連続の増収

<2023 年度通期予想>  
・3 期連続の増収となる見通し



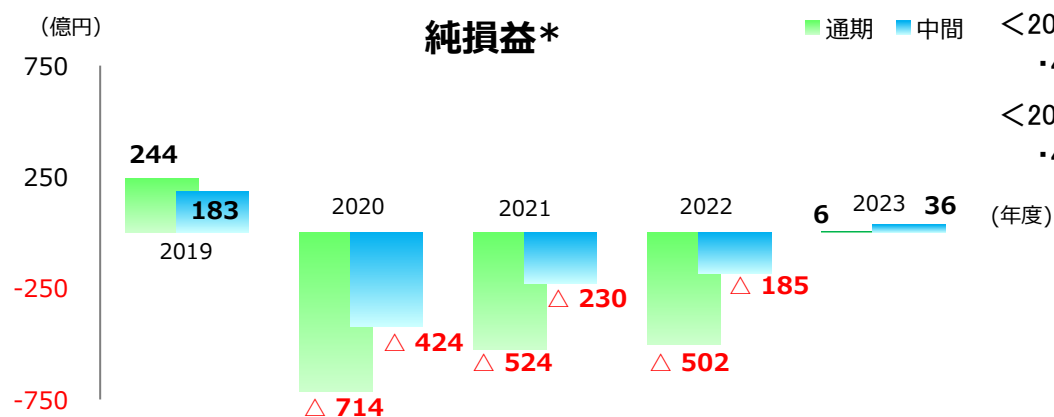
<2023 年度中間期>  
・4 期ぶりの黒字計上

<2023 年度通期予想>  
・4 期ぶりの黒字計上となる見通し



<2023 年度中間期>  
・4 期ぶりの黒字計上

<2023 年度通期予想>  
・4 期ぶりの黒字計上となる見通し



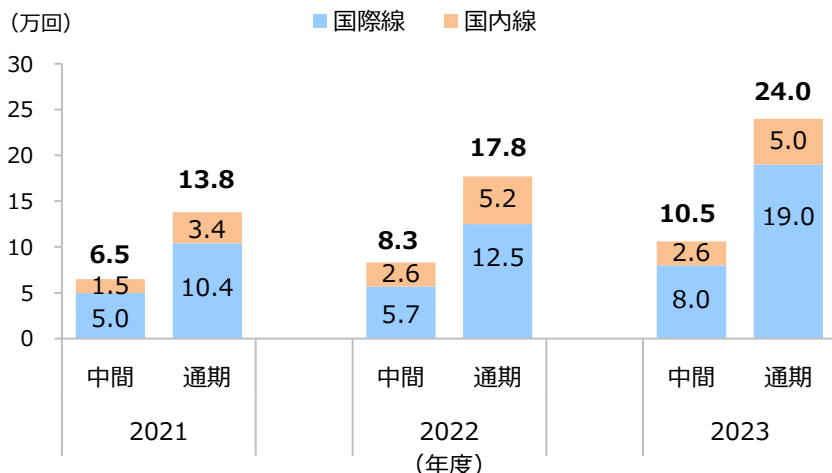
<2023 年度中間期>  
・4 期ぶりの黒字計上

<2023 年度通期予想>  
・4 期ぶりの黒字計上となる見通し

\*親会社株主に帰属する当期純損益

**【航空取扱量推移】** 2023 年度通期は見通し

**航空機発着回数**



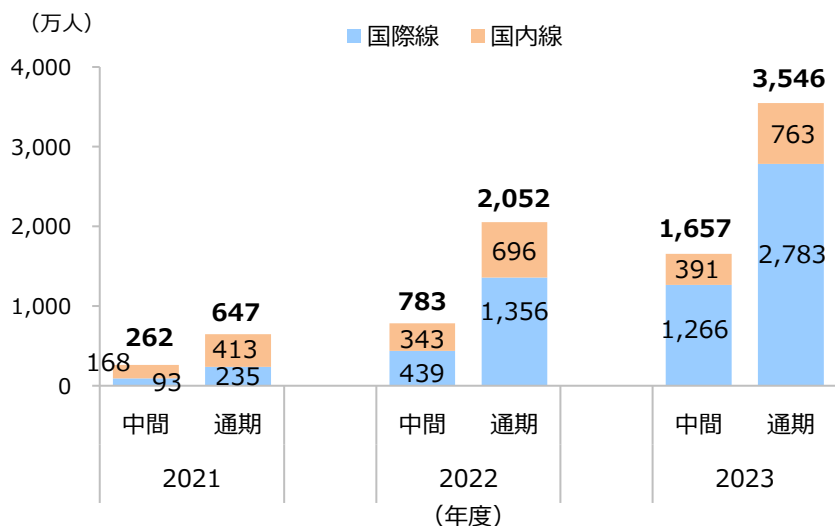
<2023 年度中間期>

- ・全体:3 期連続の増加
- ・国際線:3 期連続の増加
- ・国内線:3 期ぶりの減少

<2023 年度通期見通し>

- ・全体:3 期連続の増加となる見通し
- ・国際線:3 期連続の増加となる見通し
- ・国内線:3 期ぶりの減少となる見通し

**航空旅客数**



<2023 年度中間期>

- ・全体:3 期連続の増加
- ・国際線:3 期連続の増加
- ・国内線:3 期連続の増加

<2023 年度通期見通し>

- ・全体:3 期連続の増加となる見通し
- ・国際線:3 期連続の増加となる見通し
- ・国内線:3 期連続の増加となる見通し

～おかげさまで成田空港は開港 45 周年を迎えました～

**NAA 成田国際空港株式会社**

〒282-8601 千葉県成田市成田国際空港内 NAA ビル

URL : <https://www.narita-airport.jp/jp/>